ハトダヨ
2021年
3月号

函館市中央図書館だより

編集・発行　函館市中央図書館 指定管理者
図書館流通センター・マルエイヘルシーサービス共同事業体
〒040-0001　北海道函館市五稜郭町 26 番 1 号
TEL（0138）35-5500　FAX（0138）35-5525

第５８号　令和３年３月１日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんはご存知でしょうか。
ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。
ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼令和３年２月１日現在，予約回数の多かった本をご案内しています／

1	心淋し川	西條　奈加／著	11	もう、聞こえない	誉田　哲也／著
2	家族じまい	桜木　紫乃／著	12	湖の女たち	吉田　修一／著
3	ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人	東野　圭吾／著	13	野良犬の値段	百田　尚樹／著
4	少年と犬	馳　星周／著	14	汚れた手をそこで拭かない	芦沢　央／著
5	とわの庭	小川　糸／著	15	クスノキの番人	東野　圭吾／著
6	今度生まれたら	内館　牧子／著	16	夜明けのすべて	瀬尾　まいこ／著
7	半沢直樹 アルルカンと道化師	池井戸　潤／著	17	自転しながら公転する	山本　文緒／著
8	スキマワラシ	恩田　陸／著	18	チーム・オベリベリ	乃南　アサ／著
9	日没	桐野　夏生／著	19	一人称単数	村上　春樹／著
10	あの日、君は何をした	まさき　としか／著	20	アンと愛情	坂木　司／著

3月 展示コーナーのご案内

図書館では毎月様々なテーマで展示を設置しています。今回は開架展示とミニ展示をご紹介します。
各コーナーではスタッフが厳選した資料を展示しています。ぜひお手に取ってご利用ください。

開架展示

『東日本大震災から 10 年―もしもに備えて』
3 月 5 日（金）～3 月 25 日（木）

ミニ展示

『あれこれ名言集』
2 月 27 日（土）～3 月 25 日（木）

Pick up

『また次の春へ』
重松　清／著　東京：扶桑社
違った立場で東日本大震災を体験した人々を描いた短編集。胸が苦しくなる内容ですが、すべての人に春が訪れて欲しいと思わせる一冊です。

Pick up

『伝えよう心にのこる偉人たちの名言』
国土社編集部／編　東京：国土社
名言の紹介と、その背景や意味も解説。各章のはじめにあるチャートで、どの名言が自分に向いているのか探すこともできます！あなたの背中をそっと押してくれる名言が、載っているかもしれません。

ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

棚：J3～6
請求記号：Eナカ

タイトル：**「みそしるをつくる」**

文：高山　なおみ　　写真：長野　陽一　　出版社：ブロンズ新社（2020 年 11 月）

料理家、文筆家の高山なおみさんが子どもたちへおくる、みそ汁の作り方をわかりやすい表現と写真で伝えた絵本です。途中「おあじみ おあじみ おいしいぞ」という場面があるのですが、本書では完成してからではなく出汁の時にするのが印象的。（高山さん曰く「子どもはお出汁の味がわかるはず、美味しい味がするっていうのをちゃんと確かめてほしい」そう。）驚いたのは、最後の一文「○○ いれても おいしいよ。」皆さんは何だと思いますか？ちなみにシリーズ第１弾は『おにぎりをつくる』、そちらもぜひ。

棚：J14～15
請求記号：596.04ハキ

タイトル：**「八ケ岳の食卓」**

著者：萩尾　エリ子　　出版社：西海出版（2003 年 8 月）

サブタイトルは「簡素でおいしいレシピ　美しく愛しい普通の一日」。長野県の自然の中でハーブショップを営む著者が、日々感じたことと季節のレシピを新聞に連載したものをまとめた本です。紹介されている料理は素朴ながらも昔読んだ外国の物語にでてくる料理のようで、想像がふくらみます。またなにより、便利ではない生活の中、身の回りにあるものに目を向け、大切に活かしている様子に、豊かなくらしとはこういうことなのかも、と感じました。

「できない」ことばかりについ目が行きがちな今、ほっとできる一冊です。

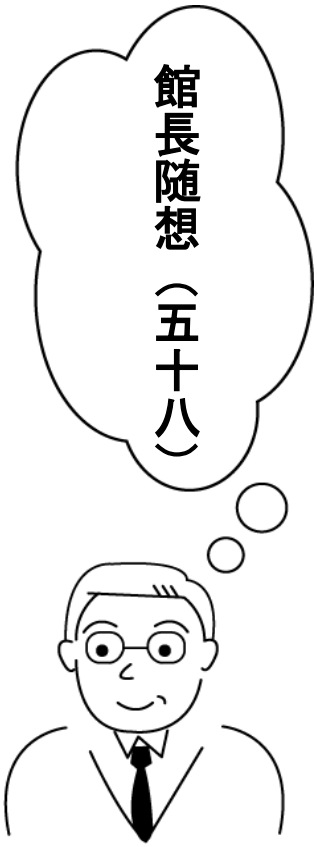
棚：閉架書庫 2
請求記号：Fシヨ

タイトル：**「蜂蜜秘密」**

著者：小路　幸也　　出版社：文藝春秋（2013 年 2 月）

美しい黄色の装丁に惹かれて読みました。古くから大切に伝えられてきた『奇跡の蜂蜜』を守るため、《ポロウ村》にやってきたのは 13 歳の少年でした。けれども、少年が背負う本当の使命は最後の方まで明かされず、自然に囲まれた村での生活や学校行事、蜂蜜の魅力など描かれているのを楽しむうち、終盤になって一気に登場人物たちが素顔を現し始めます。そこで読者はポロウ村が持つ秘密に迫る伏線が既に何箇所にも敷かれていることに気づくのです。大人が読んでも楽しい、なぜか懐かしいファンタジーミステリーでした。

館長随想（五十八）



年度末を控え、図書館では来年度の事業計画を立てています。毎年講座の講師は誰にお願いしようかと職員たちは話し合います。楽しい仕事ですが、今年は様相が違います。何より、計画しても実現できるかという不安があります。しかし例年と同じ規模の事業を行う準備をしています。

この一年間、中止や変更があっても、なんとか九割以上の事業を行いました。四月、五月は長い期間休館しその間事業も出来ませんでしたが、六月二十日には講演会を開催しました。おそらく日本中でも、緊急事態宣言解除後、最も早い時期に講演会を行った図書館だったでしょう。

新年度になると子どもの読書週間がすぐに始まりますので、その期間に子ども向けの事業をいくつか計画しています。毎回好評の「お話会と工作」は、いつもすぐに定員に達しますから、早めにお申し込みください。図書館事業の柱「郷土の歴史講座」も例年と同じように計画しています。最近函館の写真集を出版した新函館ライブラリの代表大西剛さんに、写真を大きく映し出し解説してもらう講座を企画しています。毎年著名な作家に来ていただいている秋の文芸講演会も、人気の作家と交渉中です。昨年講演いただいた馳星周さんは、昨年一月新型コロナウィルスが中国で発生したとのニュースがあったばかりの頃お願いしました。実施予定の秋に、その新型コロナウィルスが世界中に蔓延しているとは想像もしていませんでしたし、馳さんが七月直木賞を受賞したことも驚きました。馳さんの講演会を実施できて図書館員は皆ほっとしました。

今年の九月は、全道学校図書館大会が函館で開催され、図書館も会場になる予定です。私も運営副委員長を引き受けているので、先日その会議に出席しました。今の段階では感染対策を徹底し開催する予定で、三月には案内を発送します。経費はどんどんかかっていくので、もし直前中止になると大幅な赤字が見込まれます。中止決定には、全国学校図書館協議会などの了承も必要で、まるでオリンピックのようだという声もありました。報道ではオリンピックのことばかりですが、多くの行事、イベントの関係者は頭を悩ませていることでしょう。

デジタル資料館 紹介

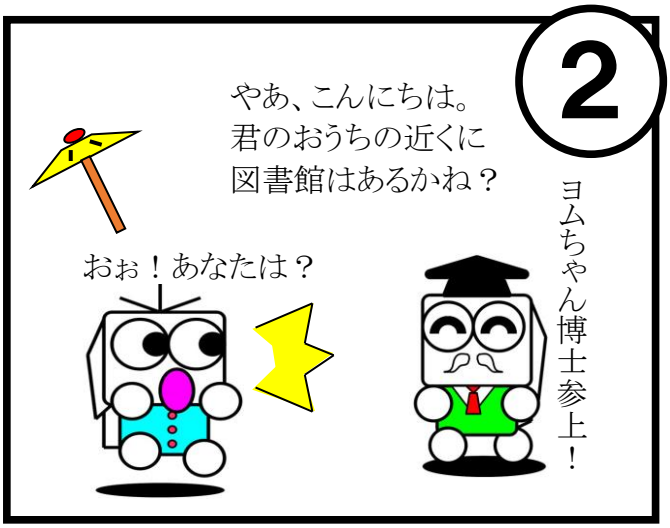
小春日和の函館駅前
（1958 年 12 月）

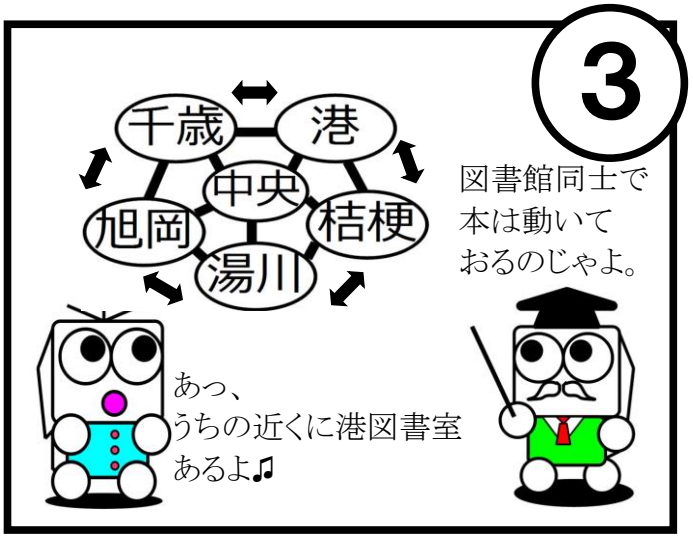
ph003895

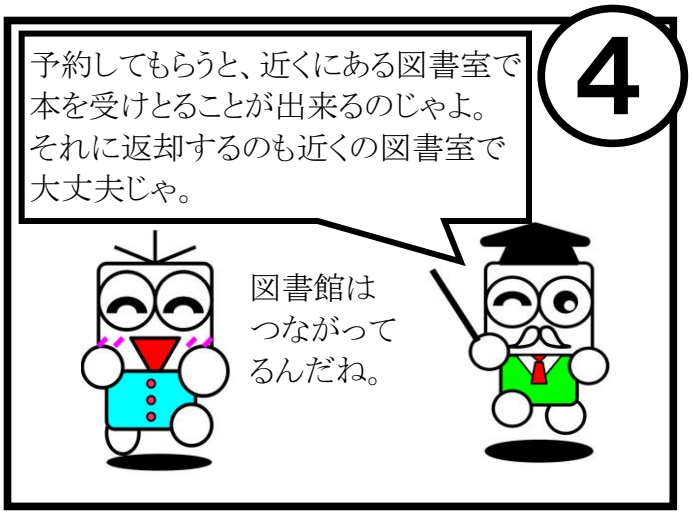
「小春日和」とは晩秋から初冬にかけての暖かく穏やかな晴天のことで、冬の季語です。

同じような天候を沖縄では「十月夏小」ドイツでは「老婦人の夏」と呼ぶそうです。今季は寒いと思う日が多く、年明けには水道が凍結して大変でした。長く感じた冬もそろそろ過ぎて、やっと「春」がやってきます。

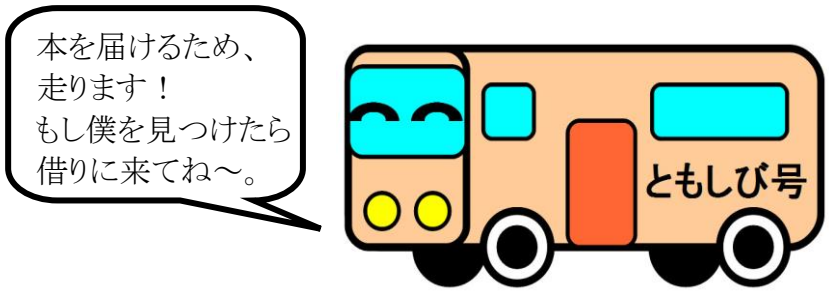
図書館はみんなの近くに







たとえば、港図書室にない本でも、予約してもらうと、ほかの図書室から回送で送り、港図書室で受け取ることができるんです！

さらに！市内27カ所を移動図書館車「ともしび号」が運行しています。

運行日時やステーションの場所は図書館ホームページ、または各図書館までお問合せください。